国際交流会館

ＲＡとは？

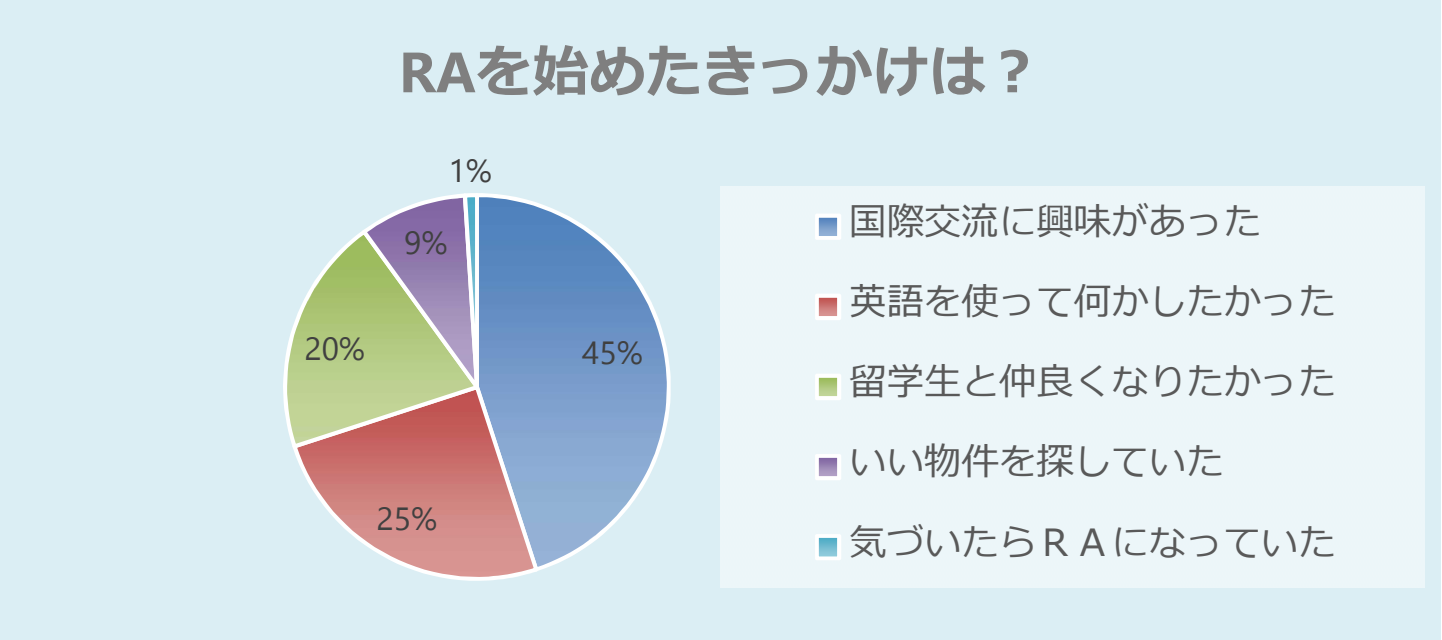
私たちは、埼大**国際交流会館**の**レジデントアシスタント（通称ＲＡ）**です。
留学生が大学での生活に馴染めるよう、また大学全体の国際化を目指して頑張っています。
あなたも私たちと一緒にＲＡとして活躍しませんか？

facebook: RAs Ihouse Saidai

ＲＡってどんな人たち？

現役ＲＡのプロフィール

人数　2017年4月時点で6名
性別　男4人、女2人
学年　修士2年3名、修士1年1名、学部4年2名
専攻　学際系1名、教育系2名、理学系1名、工学系2名



ＲＡとしての経験を活かし、
世界を舞台に活躍中！

卒業生の進路状況

進学　東京大学大学院　大阪大学大学院　埼玉大学大学院
就職　カシオ　アップルジャパン　ＪＩＣＡ青年海外協力隊
公立小学校教員　オリエンタルコンサルタンツグローバル
ＪＴＢグループ　マブチモーター 他

「今までと違った視点で日本を見つめなおせる」

理工学研究科環境システム工学系専攻
環境社会基盤国際コース卒業

塚原美晴さん

留学生の意識の高さに感動

アゼルバイジャンから来た留学生に出会って、彼女の考え方に大きな刺激を受けました。彼女と出会う前は留学生と言うと日本の文化に対しては大雑把な興味を持った状態で来日すると思っていたのですが、彼女は茶道や華道といった日本の伝統文化からよく勉強していて、十分な理解をした上でさらに深く日本を知るために留学を決めたという事でした。特に茶道に関しては彼女の話す内容が私も知らないことばかりで、驚かされるばかりでした。彼女の意見や考え方に触れることで、今までになかった角度から日本の文化を見つめなおすことができました。

My best Japanese friend!と言ってもらえた

私の研究室にはアジア圏からの留学生が多いこともあって、彼らとは普段の生活から学生生活でも関わる機会が多くありました。

中には家族で国際交流会館に住んでいる人もおり、食事を一緒にする機会もあって深い付き合いをさせてもらいました。普段の生活から彼らと関わるようになり、日本を離れるときにはあなたは日本で一番の友達だ、と言ってもらいました。これはＲＡを続ける上で大きなモチベーションでした。

ＲＡ立ち上げから5年、全てが新しい経験

私は5年前に国際交流会館のＲＡという制度が始まったときに応募したので学部2年から修士課程の修了まで5年間国際交流会館にいたことになります。何もない状態から始めて、「自分たちが留学生のために何ができるのか」を問い続ける毎日でした。留学生とその家族、また国際室の先生方など交流行事を通して沢山の人と関わることができました。色々な人たちと文化や言葉を越えた付き合いができたし、素晴らしい先輩後輩に囲まれて刺激的な毎日を過ごすことができました。ＲＡとして得たこの経験は、社会人になった後も私の大きな財産として残るものだと思います。国際交流に少しでも興味がある人、ＲＡになれば必ず素晴らしい出会いと経験が待っていると思います！

「留学生の気持ちになって日本での暮らしを考える」

理工学研究科環境システム工学系専攻
環境制御システムコース2年
大塚美緒子さん

国際交流会館を作っていく

ＲＡは新しい組織なので、自分から色々な意見を提案してそれを実現することができます。私はＲＡ一人一人が明確な役割を持つことでもっと幅広く留学生の手伝いができると思い、RAがどのようにあるべきか、組織の見直しを行いました。特に、学期ごとに各階で顔合わせをするフロアミーティングを導入したことで、留学生の様子が分かったり、問題に早く対応して国際室と連携をとることができたりしました。ＲＡが新しいことを提案すれば国際室も積極的に協力してくださり、国際交流会館を留学生がより住みやすい場所に変えていくことができます。それは、実際に会館に住んで留学生と近い場所にいるRAだからこそ気づき、改善していけることなのかもしれません。ＲＡの中には留学経験がある人もいて尊敬することも多いですが、私は留学生のために何かしたいという気持ちが重要で、RA全員が共通して持っているからこそお互いに信頼して協力し合えるのだと思います。

海外研修で会ったトリノ大の学生と埼大で再会

集中講義でイタリアの文化研修に参加し、埼玉大学に留学予定のトリノ大の学生に会いました。彼女たちは一生懸命日本語や英語を使って私たちとコミュニケーションをとろうとして、トリノの街を案内してくれました。そこで彼女たちがどれだけ日本への留学を夢見ているのか、どれだけ日本人と関わろうとしてくれているのかが分かりました。その経験がＲＡとして留学生のために自分がどういう行動をとるかを決める大きな軸になったと思います。 彼女たちと埼大で再会し、彼女たちの日本での姿を近くで見れたことが非常に印象的なものとなりました。留学という大きな人生経験をサポートすることの重大さとやりがいを実感しました。

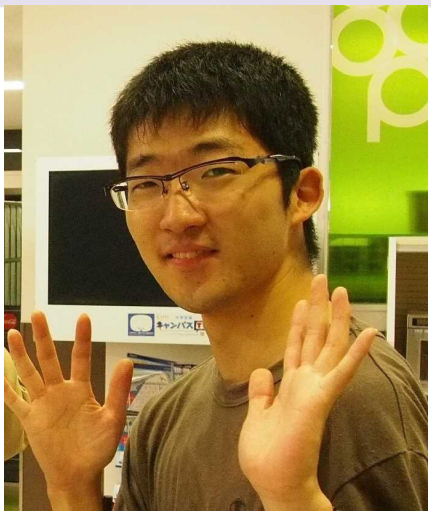
学業との両立

ＲＡとして留学生と関わった経験は、私に国際的な視点と自信を与えてくれました。英語が得意ではなく、シャイで典型的な日本人だった私も、そのうち、Where are you from ?と訪ねられるほど、国籍や文化を越えて様々な人と積極的に交流ができるようになっていました。その経験が研究活動にも徐々に活きていき、海外共同研究や国際学会での発表、国際論文執筆など、今までは想像できなかった世界へとつながっていきました。RAと研究活動の両立は簡単なことではありませんでしたが、RAの仲間の協力があってこそどちらもやってこられたのだと思い、感謝しています。ＲＡとして1.5年間、とても貴重な経験をさせてもらいました。

「埼大を好きになって帰ってもらいたい」

教養学部グローバルガバナンス専修
卒業

土屋健太さん



日本に良い印象を持って帰ってもらうために何ができるか

Global Youthというプログラムを通じてアメリカに留学した経験を通じ、外の目線から日本を見つめなおすようになりました。そこで今まで気づかなかった日本の良さ・悪さを知って、日本に来る外国人の方にも日本を好きになってほしいと思うようになりました。帰国後すぐＲＡの存在を知って、自分がやりたいことができるチャンスだと思いました。留学していた経験を活かし、少しでも留学生の助けになれるよう様々なイベントを企画しました。日本の代表的な文化からローカルなものまで、国際交流会館でしかできない体験をしてもらおうと自分なりに努力しました。中には毎回手伝いをしてくれる留学生もおり、彼らと一緒に何かをやり遂げるという経験をできたことはＲＡでしかできない大きな財産だと思います。

打ち解けられない人にも積極的にコミュニケーションをとる

外国人と聞くと活発な印象を持ちがちかもしれませんが、実際には日本という国で新しい環境で生活を始めることに不安を持っている学生はたくさんいます。そんな留学生の中には不安が拭えずに周囲の人とうまく打ち解けられない人もいます。彼らが少しでも日本での生活に馴染み、埼大を好きになってもらうにはまた悩みを相談できる環境を作ることが重要だと思います。ＲＡとして留学生と距離が近いことを活かし、積極的にコミュニケーションをとることで少しでも彼らの不安を解消できればと思ってきました。最初は表情からも不安な様子が伺えた留学生が大学生活に慣れて楽しそうにしている姿を見て、自分のやってきたことに大きな達成感を感じました。当然「自分はやり切った」という思いとともに「もっと何かできたのでは」という反省もあります。楽しい思いも辛い思いも両方経験することができ、とても濃い2年間だったと思います。頼りになる仲間や先輩方、また先生方のおかげで卒業までＲＡを続けることができたと思い、感謝しています。

ＲＡに興味がある学生へ

応募資格

① 外国人留学生等への支援活動及び交流事業に関心のある者
② 日本語及び英語等での基礎的コミュニケーションが可能である者
③ 学部又は大学院の正規課程に在籍する者（休学者を除く）
④ 在学年限が残り１年以上ある者

業務内容

・日々の生活の補助
・危機管理の対応
・入居及び退去手続きの補助
・国際交流行事の企画、運営

求める学生

- 国際交流に興味がある
- 英語を話したい（レベル問わず）
- チャレンジ精神がある
- 異文化に興味がある

ＲＡ募集期間中に、大学の国際交流のページ（http://www.saitama-u.ac.jp/international/）から必要書類を用意して、国際室に申し込んでください。
ＲＡ募集期間については、募集の都度上記ＷＥＢページに掲載します。

提出先及びお問い合わせ：
国際室　Tel：048-858-3011
E-mail：ryugaku@gr.saitama-u.ac.jp